

日本労働年鑑 第51集 1981年版
The Labour Year Book of Japan 1981

第二部 労働運動

XI 農民運動

2 主要な農民運動

4 三里塚(成田)空港廃港闘争

成田空港廃港連月連日闘争

千葉県成田市の成田空港建設反対闘争は三里塚・芝山連合空港反対同盟に結集する農民とそれを支援する千葉動労などの労働組合・全学連中核派や第四インターなどの学生団体・市民団体・住民組織によって一四年にわたってたたかいつづけている。一方政府は七九年八月に、「第四次空港整備六カ年計画」を発表したが、これは成田二期工事を中心に、関西新空港の建設、羽田空港の拡張、全国一七空港のジェット空港化などに三兆二〇〇〇億円の巨費を投ずる計画であり、成田空港二期工事強行の意図を明白に内外に宣言したものであった。

これにたいして反対同盟は九月一六日、成田市・第一公園に反対派農民をはじめ、全国より支援住民団体・労組員・全学連学生など一万九四六五人(県警調べ六六五〇人)を結集し、「三里塚空港廃港、二期工事阻止全国総決起集会」を開催した。反対同盟はこの集会で前年同様政府の対話路線を拒否するとともに、二期工事实力阻止態勢を固めるべく従来の「百日闘争」にかえて、「連月連日闘争」方針および二期工事強行に反対する一〇〇万人署名運動を実施する方針を採択し、徹底抗戦の構えを再確認した。集会後参加者は、八〇〇〇人の機動隊の厳重な警戒体制のなかでデモ行進をおこなった。この行進中近くの山林から妨害気球七個が打ち上げられたり、岩山地区で燃えるゴムタイヤの黒煙がまい上がったり、夕刻には花火・照明弾などが三〇発以上断続的に打ち上げられた。このため空港は滑走路南側が使用できなくなり、同夜いっぱい北側に飛び立つ変則的な「対面運航」となった。

二期工事粉碎全国総決起集会

国際反戦デーの一〇月二一日、反対同盟は二期工区・B滑走路北端の十余三の反対派農民所有地と三里塚第一公園との二カ所で「二期工事粉碎全国総決起集会」を開催した。集会には反対派農民をはじめとして、動労千葉・関西新空港建設反対期成同盟・北富士忍草母の会・日本原農民・部落解放同盟ならびに支援労働者・学生など二万八六四人(県警調べ六三八〇人)が結集した。集会では、病床にある戸村一作反対同盟委員長にかわって石橋政治副委員長が「鉄路を武器に備蓄ゼロ化の闘いをいどむ動労千葉と、農民の真髓を發揮し、農地を武器に闘うわれわれが共闘し、いかなる苦難ものりこえ二期工事を阻止し、軍事空港をこの地から葬る」と決意表明をおこなった。ついで北原鉦治事務局長は戸村委員長のメッセージを読み上げ、「反対同盟は基本どおり対話路線を拒否し、さらに廃港まで闘い抜く」と表明するとともに、ジェット燃料輸送を阻止すべく、近く燃料輸送鹿島ルート沿線でデモ行進すると述べた。集会後参加者は十余三一天神峰一東峰を旗やノボリを立ててデモ行進した。途中三里塚闘争会館付近で古タイヤ数十本が燃やされたり、妨害気球やタ

コが十数個上げられた。また第二・第三ゲート間の第七監視塔に火炎ビン十数本が投げられ、第三ゲート近くの国道二九六号で機動隊に火炎ビン三〇数本が投げつけられた。夕刻には空港ガードマン詰め所とポンプ小屋が火炎ビンによって全焼、また県警前線指揮所にまで進出してきたデモ隊に機動隊が投石するなど、三里塚は一日中騒然とした雰囲気につつまれた。

戸村反対同盟委員長の死

三里塚・芝山連合空港反対同盟の委員長戸村一作氏は七九年十一月二日死去した。反対同盟は十一月三日、三里塚第一公園で戸村氏の追悼集会を開催したが、同盟員・支援労組など三〇〇〇人が集まった。石橋政治副委員長は「戸村氏の意志をひきつぎ二期工事阻止・廃港にむけて闘い抜く」と決意表明した。

事業認定切れ・二期工事阻止全国総決起集会

事業認定が切れた一二月一六日の翌日一七日、成田空港の「事業認定切れ・二期工事阻止」をメインスローガンとする全国総決起集会が反対同盟主催で開催され、反対派農民をふくめ一万六五二三人(県警調べ五三〇〇人)が参集した。集会後参加者はパトカーに火炎ビンを投げつけたり(火炎ビン処罰法違反で六人逮捕)、また岩山付近では活動家約七〇人が火炎ビンを満載したトラック三台に分乗し空港公団用地に突入をはかった。これにたいして機動隊はガス銃を発射して応戦した。

全日農の三里塚闘争支援決定

全日農は一二月五・六日の第一九回定期全国大会において、農地取り上げにたいするたたかいのひとつとしてはじめて三里塚闘争支援問題を討議し、千葉県農民組合のとirikumiを支援して、つぎにかかげる支援決議を採択するとともに、たたかいの具体化の検討にはいることを決定した。

【三里塚空港反対闘争支援に関する決議】

自民党政府は今回行われた総選挙で敗北し混乱と動揺をくりかえしているが、一方においては米の生産調整地域農業政策等にみられるように、強権にしてファッショ的な農業政策をおしすすめてきている。このような独占資本の工業化政策に従属する農業政策のために外国農産物がわが国の市場を支配し、日本農業は根底から破壊しつつされ、食糧の自給率は低下の一途をたどり農民の生活はなおいっそう困難になってきている。このなかにあって、三里塚空港反対同盟に結集する農民は十四年のながきにわたって政府の空港建設に反対し、強権による土地収奪実力阻止の厳しい戦いをつづけ「飛行阻止・二期工事着工阻止・三里塚空港廃港」の闘争方針を断乎堅持し全国の広汎な諸階層の人々を結集し大衆的実力闘争を果敢に展開している。三里塚空港反対同盟は戸村委員長の死の悲しみを闘いの力にかえて決意も新たに当面の闘争目標を現地三里塚で飛行阻止行動を毎月実施し政府をおいつめる。成田用水事業・地域農業振興計画については戦う農業建設委員会をつくり、騒音問題については騒音対策班をつくりこれに対処する。中央行動として運輸省をはじめとする政府各関係機関に連続抗議闘争を行う。それと平行して二期工事着工阻止百万人署名・不当弾圧反対救援活動十万人署名の全国運動を展開する。さらに事業認定の期限が切れる十二月十六日には全国総決起行動を行うことをすでに決定している。全日本農民組合連合会は地元千葉県農民組合のたたかいを支援するために次の活動を全力をあげてとりくむ。

一、全日農中央常任委員会は、二期工事を中止せよとの声明をだすこと。

一、全日農中央常任委員会、および全日農国会議員団は内閣総理大臣に会談を求め二期工事中止を申し入れること。
一、全日農国会議員団は、事業認定期限切れ問題について国会において政府を追及すること。
一、全日農は三里塚空港反対同盟及び千葉県農民組合連合会が全国に協力を呼びかけている二期工事阻止百万人署名をとりくむこと。
右決議する
一九七九年十二月六日
全日本農民組合連合会第十九回定期全国大会

反対同盟の「連月連日闘争」は八〇年にはいっても果敢に展開された。三月三〇日の集会(七九年三月二六日の管制塔乱入二周年記念)には全国から一万八五三七人(県警調べ四四七〇人)が結集。五月二五日の集会(空港開港二周年記念)には八六五五人(県警調べ五八〇〇人)が結集。また六月一五日には「パイプライン阻止・ジェット燃料貨車輸送阻止闘争」(主催東京実行委員会、協賛反対同盟)、七月一三日には「関西新空港粉碎・八〇年閣議決定阻止・三里塚二期工事粉碎・七・一三中央闘争」(主催・淡路国際空港淡路町反対期成同盟・三里塚芝山連合空港反対同盟、協賛国鉄千葉動力車労組)のための集会が開催された。この後者には関西地方から反対期成同盟員を中心に六〇〇人が参加し、東京・明治公園で開催された(四三〇〇人)。この集会には前都知事的美濃部亮吉参院議員が激励にかけつけ注目されたが、参加者は散会后デモ行進に移り、運輸省前で両空港粉碎のシュプレヒコールをくりかえした。また翌一四日代表団は運輸省にたいして抗議行動を展開した。

また七九年一月三〇日に閣議決定された「立川基地跡地利用計画大綱」(全長一二〇〇mの新滑走路建設をふくむ)に端を発する五月一日砂川現地闘争集会(主催・砂川基地拡張反対同盟)にも三里塚から支援参加がおこなわれた。

なお八〇版本年鑑(三七七頁)で記述した灌漑用「風車塔付き井戸」について空港公団は土地収用法をたてに工事を中止するよう警告していたが、七九年七月二八日北原鉦治同盟事務局長および木の根地区農民八名は連盟でつぎのような確認書を提出した。(1)この灌漑施設は営農に必要な用水を目的としたものである、(2)二期工事に支障ある場合は自主的に撤去する、(3)当該地域に同種の施設を設置しない。

日本労働年鑑 第51集 1981年版
発行 1980年11月25日
編著 法政大学大原社会問題研究所
労働旬報社
* * * *年 * * 月 * * 日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1981年版(第51集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
